

第4回 運営会議 議事録

日時：平成21年3月17日～25日

場所：持ち回り開催

出席者（敬称省略）

- 増田 昇（大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授）
- 澤木 昌典（大阪大学大学院工学研究科 教授）
- 前中 久行（大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授）
- 下村 泰彦（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授）
- 嘉名 光市（大阪市立大学大学院工学研究科 准教授）
- 清野 博子（元読売新聞編集委員）
- 永田 宏和（NPO 法人プラスアーツ 理事長）
- 弘本 由香里（大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所（CEL）客員研究員）
- 吉野 勝（泉佐野観光ボランティア協会）
- 西台 幸子（うみべの森を育てる会）
- 松下 義彦（泉佐野市 都市整備部長）

おもな意見

議案1：コンセプトブックについて

- ・環境についての項目が少ない。低炭素や植樹などのCO₂削減につながる項目も入れることを考えてはどうか。また、生態系と環境との違いが出ていない。いっそもとめても良い。
- ・一言で公園を表す言葉が必要。
- ・一番この公園で魅力的なことは、神社と川と水路、ため池で構成される生活と密着した環境システムを視覚的に眺められることと考えている。このシステムはごく最近まで使われてきたため、大切な景観とする意味は大きい。コンセプトブックのなかで解説すべき。
- ・コンセプトブックに盛り込むべき事項のリストをつくるべき。全体像のなかで構成を考え、決まっていないことを考えていくほうが良い。
- ・公園とは何か、未開設とは何かを盛り込むべき。
- ・シナリオ型の解説も必要。未開設区域と開設区域の違いやプロセスの共有が21世紀型の公園づくり手法があることなどを盛り込むべき。
- ・泉佐野丘陵緑地に関わる要綱がやはり必要。大阪府側でも活動の許可についてガイドラインが必要。
- ・イギリスでは地球温暖化を見越して植物の移動を始めている。21世紀に向けた新しい公園であるならば、地球温暖化も視野に入れた樹種構成を行うことも考えて見るのも良

い。

- ・基盤施設としてトイレを行政でつくるならば、犯罪空間とならないよう、また美しさも兼ね備え、みんなが安心して使えるトイレを提案してほしい。
- ・「整備に機械をつかわない」ということはできないのではないか。そもそも、機械の話の根底には「十分に計画するということ」という意図があるのではないか。そのことを文中に表現すべき。
- ・機械のことをコンセプトブックに入れるのであれば、工事（行政）活動（府民）が何に機械が使えて、何に機械が使えないのかの整理が必要。
- ・パーククラブ養成講座で理念を共有していただく回があるように、地域の団体を受け入れる際にも公園の理念を理解してもらうため、講座を受講していただく等の場が必要。
- ・整備の仕方の違いによって、リーディング地域とハンドメイド地域を分けているが、なぜ分ける必要があったのかを示しておくことが必要。
- ・救急対応マニュアルもつけてはどうか。
- ・運営会議に諮らなければならないコンセプトブック的な項目と諮らなくても良いハンドブック的な項目が出てくる。その整理が必要。
- ・キャッチコピー等のメッセージ性の高い言葉を書くページのタイトルにつけるべき。

議案2：パーククラブについて

- ・行政が行う役割が見えてこない。公園では出来ないことを伝える。あるいは、行政のやる企画が面白かったらパークレンジャーが手伝っても良い。このような行政の役割を入れたほうがパークレンジャーの姿がよく見える。
- ・ボランティアの交通費などについても今後議論が必要となる。交通費として支給したが、飲食費として使用されるなど行政のシステムでは難しいことになる事例もあるので注意が必要。
- ・観光協会も泉佐野駅に泉佐野市観光情報センターという拠点が出来たことにより、駐在スタッフの有償化についてなど、いろいろ考えなければいけないことが見えてきた。活動を進める中でパークレンジャーの組織や活動に変化が出てくる。変化に応じてパークレンジャーが形態を決めていけば良い。
- ・パークレンジャー養成講座後の組織化段階が重要である。常に講座の内容を把握しながら、組織化に向けた検討を事務局や運営会議ですておくことが必要。
- ・講座終了後にパークレンジャーが自立して活動できるように、活動日の設定等の「活動のマナー」を決めることが必要。
- ・パークサポーターと一般来園者の境界が不明確である。講座を受けなければパークサポーターになれない等の区分けをしておくべき。
- ・今回、パークレンジャー養成講座で選ばれた人と同様に落ちた人を大切にすべき。
- ・パークマネージャーを有償していくことは考えたほうがよい。関わっている他の取り

組みにおいても同じような話が出ている。一方で、不満が起こらないようにパークレンジャー側のケアが必要。